

(用語集)

- IPCC 気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate Change)。世界気象機関 (WMO) と国連環境計画 (UNEP) により、1988 年に設立された。各国の科学者及び専門家で組織され、気候変動の (1) 科学的評価、(2) 影響・適応策の評価、(3) 緩和策の社会的・経済的側面の評価を行い報告書をまとめている。その報告書の内容は、地球温暖化に関する条約交渉の際などに、共通認識の情報として取り扱われている。
- UV インデックス UVインデックスは人体に対する影響を示す紫外線量を指標化したもので、通常、日本国内で観測されるUV インデックスは0~12 程度である。現在、世界保健機関(WHO) などでは、UV インデックスを用いた紫外線対策を行うよう奨めている。
- WMO 世界気象機関 (World Meteorological Organization)。世界の気象事業の調的発展を目標として国際計画の推進・調整を行うため、昭和 25 年(1950 年) に世界気象機関条約に基づいて設立され、翌昭和 26 年(1951 年) に国際連合の専門機関となった。平成 19 年(2007 年)3 月 31 日現在、182 か国と 6 領域が構成員として加盟している (日本は昭和 28 年(1953 年) に加盟)。事務局本部はスイスのジュネーブに置かれている。
- エアロゾル 大気中に浮遊している固体あるいは液体の微粒子。地表や海洋から舞い上がるものや、工業活動によって排出されるばい煙などがある。太陽光の吸収・散乱や雲の生成などに影響する。
- ヒートアイランド 人工的な熱の排出や、人工的な地表面及び建築物の増加により、都市の気温が周囲よりも高い状態になる現象。気温分布が都市を丸く取り囲んで島のような形になることから、このように呼ばれる。
- 異常気象 一般に過去に経験した現象から大きく外れた現象で、人が一生の間にまれにしか経験しない現象をいう。大雨や強風等の激しい数時間の気象から数か月も続く干ばつ、冷夏などの気候の異常も含まれる。気象庁では、過去 30 年間に観測されなかったような値を観測した場合を異常気象と定義している。
- 温室効果ガス 地表面から放出される赤外線を吸収して大気を暖める効果 (温室効果) をも

つ気体（ガス）の総称。水蒸気、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素などがある。このうち、水蒸気を除くガスは人間活動に伴って増加しており、地球温暖化の原因物質として知られている。

海洋の健康診断表 気象庁が発表する海洋の情報を網羅的に掲載したインターネットホームページ。海水温、海流、潮位、波浪、海氷などの海洋に関する短期的な実況・予測情報から、長期的な変動に関する情報を提供している。

炭素循環 人間による化石燃料の燃焼とそれによる二酸化炭素の大気への排出を含めた、地球上の炭素の排出、吸収のメカニズムの循環系をいう。炭素循環を構成する主な過程として、（1）大気と海洋との間の二酸化炭素の交換、（2）海洋の「表層水」と「深層水」の循環による「深層の長期貯蔵庫」との間の二酸化炭素の交換（3）土地利用の変化により生ずる二酸化炭素の正味の吸収または排出（森林破壊など）（4）陸上の植物の光合成による二酸化炭素の吸収、木材や土壌内の長期貯蔵庫への植物炭素の移動がある。

気候システムの温暖化につれ、大気中への二酸化炭素の排出量が増加し、温暖化をさらに加速する（炭素循環のフィードバック）ことが予測されるが、その効果の大きさは不確実であり、それが温暖化予測の不確実性の原因のひとつと指摘されている。

中層フロート 海面から深さ 2000 メートルまでの間を浮き沈みしながら、水温・塩分を観測し、そのデータを人工衛星経由にて通報する観測機器。世界気象機関(WMO)及び国連教育科学文化機関(ユネスコ)政府間海洋学委員会(IOC)などの協力のもと、世界の海洋を常時観測し、海洋の状況をリアルタイムに把握することを目的としたアルゴ計画において、主要な観測機器として用いられている。中層フロートから通報されたデータは、直ちに気象データ交換のための全球通信システム(GTS)を通じて国際的に交換され、海水温予測やエルニーニョ現象の監視・予測などの気象・海洋業務に利用されている。